

(1) 駅前広場の検討経過【概要】

① 倶知安駅周辺整備構想（H30）

■ 駅前広場に関する主な方針

- ① タクシー・路線バスは駅に近い位置に配置し、移動負荷を少なくする。
- ② タクシーと一般送迎車の乗降スペースは分離して設置。
- ③ 大型車と普通車は交錯せず、安全円滑に出入りできるように空間配置。
- ④ 観光バス・ツアーバススペース、宿泊施設等の送迎車両スペースは別途確保。
- ⑤ 正面玄関となる方に歩行空間を設け、駅前通りと結ぶ円滑な動線を確保
- ⑥ 雨天時や大雪の際に必要な屋根を検討
- ⑦ 除雪時の堆雪スペースを配慮した空間づくり

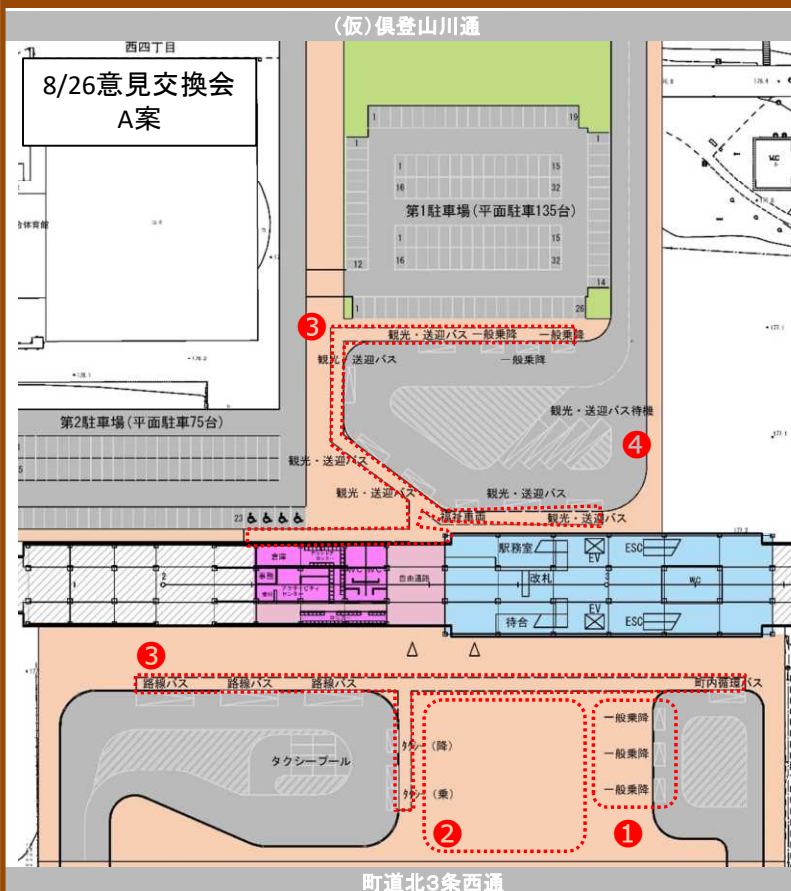


◆ 西口
一般乗降場
一般駐車場
観光送迎車（大型バス）
観光送迎車（マイクロ以下）

◆ 東口（北）
路線バス
町内循環バス
代替バス

◆ 東口（南）
タクシー
一般乗降場

② 令和2年度から今年度にかけての議論



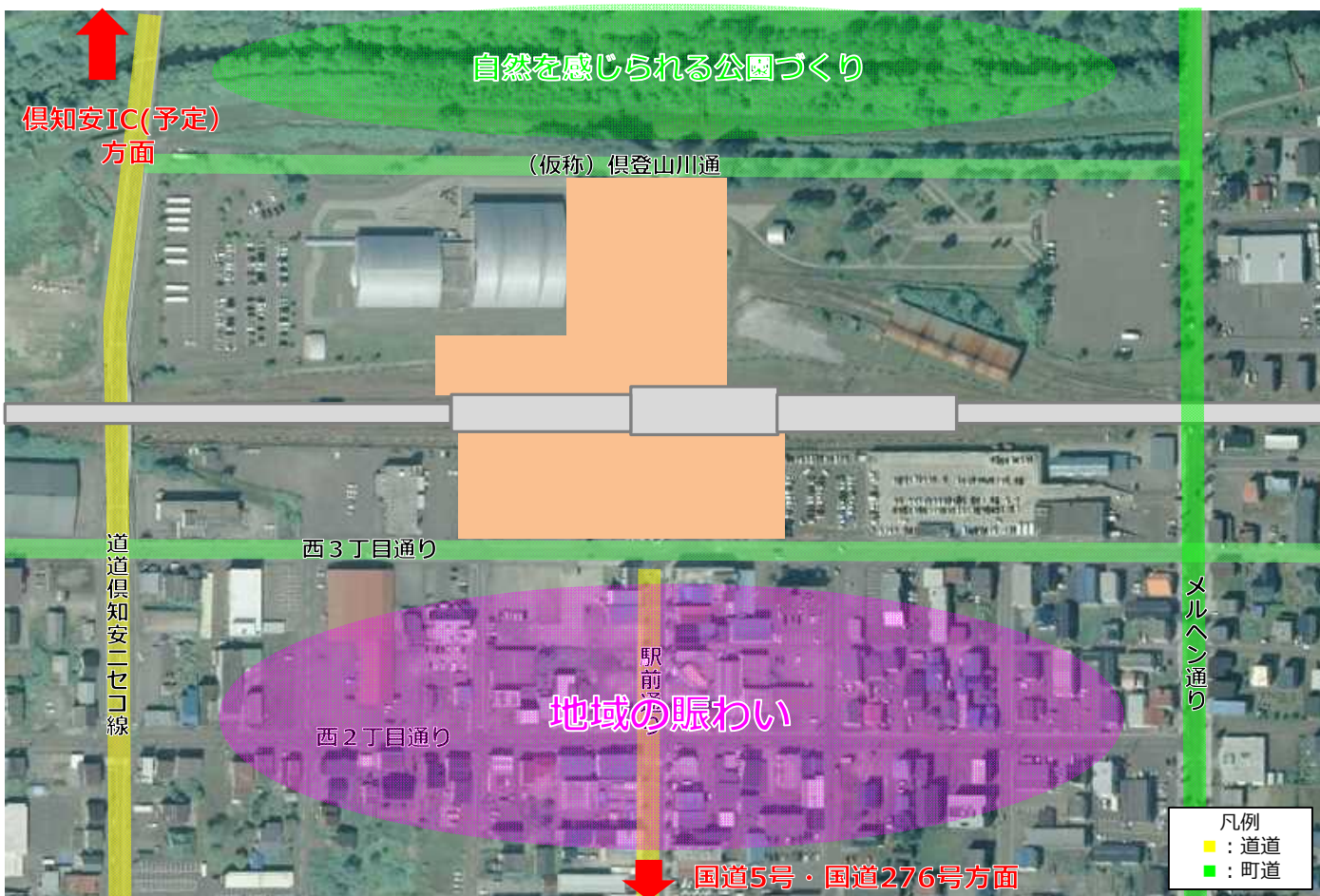
【委員会で合意された内容】

- ① 東口：一時的な一般乗降場を設ける。
- ② 東口：歩行空間を確保した駅前広場の検討
- ③ 共通：駅舎から公共交通の乗降場への動線上にシェルターを設置する。
（※シェルター設置の際は、羊蹄山の眺望に配慮する。）
- ④ 西口：観光の送迎（大型）を配置する。

【第4回委員会での検討事項】

- 東口
 - ・ 駅前通りと駅前広場の動線について、再検討を行う。
 - ・ 公共交通（バス・タクシー）、観光の送迎（マイクロ以下）の「送」、一般車の「乗降」を配置する。
 - ・ 公共交通と一般交通を分けて配置する。
- 西口
 - ・ 観光バスの送迎を西口に集約したい。
- 全体
 - ・ 駅前広場の機能配置を決定したい。

2. 駅前広場の機能分担について



【交通需要に合わせた駅前広場の配置】

- 公共交通は、主に国道5号や国道276号方面へと向かうことが多い。
→東口に、公共交通を配置
- 送迎需要は、ひらふ・花園・東山等。IC予定地は西側からアクセスしやすい。
→西口に、観光送迎を配置

+

【委員会での意見】

- 基本構想では、駅前のブロック全体で、地域の賑わいを生み出すことを検討していた。
- 駅前通りを含めた賑わいづくりを進めるために、交通体系を東側に集約してはどうか。
- 町民の利用が多い公共交通機関は、東側にあったほうが良い。
- 新幹線利用者は、帰りがけに何かを買う傾向がある。
→賑わい創出と収益性を考えると、観光送迎の「送」を東口に配置できないか。

上記を踏まえ、駅前広場の東口・西口の機能分担を以下のように設定。

○東口：公共交通、観光送迎の「送」、一般乗降、一時駐車場

○西口：観光送迎の「迎」、一般乗降、一般駐車場

Q.現在の倶知安駅は観光客の利用が多い。西側に観光送迎機能を持たせると、人の賑わいが西側に集約し、東側が閑散としてしまうのではないか？

- 前提として、公共交通に関する車両は、国道5号や国道276号方面へと向かうことが多いので、西側に公共交通を配置するとバス事業者のデメリットが大きい。
- 観光客送迎のうち「迎」は駅を素通りすることがほとんど。「送」を東側に配置することで、賑わい創出と駅前通りの収益性UPに繋がるのではないか。
- 新幹線開業以降を考えると、ドライバー不足の深刻化やカーボンニュートラルの視点等から、将来的に公共交通へシフトしていくのでは（していくべきでは）ないか。